

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	地下壕対策事業(R3 事業番号12-1)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ 災害に強い県土づくりと防災体制 の強化	
担当部課名	まちなみ共創 部	まちなみ整備課	事業実施 年度	平成 24	～令和 3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-12	
事業内容	地下壕に起因する事故の危険性を軽減させるため、危険性のある地下壕の埋め戻し等の対策を行う。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中 の予算額・ 執行額 【単位:千円】		～H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	合計	
	A. 予算現額	124,750	2,540	416	1,929	129,635	
	B. 執行済額	74,856	2,523	354	1,905	79,638	
	うち 交付金充当額	59,883	2,018	282	1,524	63,707	
	執行率(%) (B/A)	60.0%	99.3%	85.1%	98.8%	61.4%	
	執行状況の説明	令和3年度工事を年度内に執行した。不要額24千円生じているが、実績による残額であり事業については、計画とおりに行われた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	地下壕対策工事の着手	目 標	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所
		実 績	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	地下壕対策工事の完了	目 標	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所
		実 績	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所
	対策を実施した地下壕での事故発生件数 0件	目 標	0件	0件	0件	0件	0件
		実 績	0件	0件	0件	0件	0件

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R4年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	対策を実施した地下壕での事故発生件数 0 件		目 標	0件	—	—	—	—
			実 績	0件	—	—	—	—
	状況説明	【R4年度】 ・事業開始から対策を実施した地下壕での事故発生件数は0件であるため、事故の危険性軽減に繋がっている。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R4年度】 ・対策を実施した地下壕での事故発生件数が0件であることから、地下壕の危険度軽減効果が期待できる。				【R4年度】 ・土地所有者との連絡体制を構築し、状況把握に努める。				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R4年度】 ・対策を実施した箇所において、不具合などが確認された際、土地所有者から情報提供を行えるよう連絡体制の構築に努める。								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	商店街アーケードビジョンづくり支援事業 (H29事業番号3-16)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ 商店街・中心市街地の活性化と産業の振興	
担当部課名	経済観光部	なはまち振興課	事業実施 年度	平成 29	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-1-(7)	
事業内容	誰もが安全・安心・快適に買い物や散策が楽しめる魅力ある中心商店街の商環境整備のため、老朽化したアーケードの権利関係や現地調査、関係者へのアンケート調査などを行い、商店街関係者によるアーケードビジョンづくりを支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	6,915	—	—	—	6,915	
	B. 執行済額	6,878	—	—	—	6,878	
	うち 交付金充当額	5,502	—	—	—	5,502	
	執行率(%) (B/A)	99.5%	—	—	—	99.5%	
	執行状況の説明	商店街アーケードビジョンづくり支援事業として業務委託契約し実績払いで執行した。予算残額については、先進地視察の旅費の実績による残額となっている。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	平和通り商店街アーケードのビジョンの策定支援の実施	目 標	ビジョン策定支援実施	—	—	—	—
		実 績	ビジョン策定支援実施	—	—	—	—
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	平和通り商店街アーケードのビジョンの策定(商店街組織による基本方針の決定)	目 標	ビジョン策定	—	—	—	—
		実 績	ビジョン策定	—	—	—	—

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況				
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 目標/発現年度
	・平和通り商店街の老朽化したアーケードの撤去 ・代替案の整備開始	目 標	—	—	—	—	平和通り商店街のアーケードの撤去、代替案の整備開始
		実 績	—	—	—	—	修繕で対応
状況説明	【H30年度】 ・アーケードビジョン策定後のアーケード撤去に向けた平和通り商店街関係者による合意形成に向けて継続協議中。 【R1年度】 ・ビジョンを具体的な計画とするため、平和通り商店街振興組合理事会、総会での検討を継続している。 【R2年度】 ・ビジョンを具体的な計画とするため、平和通り商店街振興組合理事会、総会での検討を継続している。 【R3年度】 ・ビジョンを具体的な計画とするため、平和通り商店街振興組合理事会、総会での検討を継続している。 【R4年度】 ・今後は修繕で対応することとなった。						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【H30年度】 ・老朽化したアーケードの撤去に向けた平和通り商店街関係者による合意形成にあたっては、費用捻出の方法が課題となってくると思われる。 【R1年度】 ・平和通り商店街の取組を推進するため、市アーケード再整備等補助制度を創設した。 【R2年度】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、その対策等が中心となったため、アーケード再整備等補助制度の活用について、協議を進めることができなかった。 【R3年度】 ・想定していたよりも長いコロナ禍の影響(緊急事態宣言やまん延防止の適用)により、その対策等が中心となったため、アーケード再整備等補助制度の活用について、協議を進めることができなかった。 【R4年度】 ・長く続いたコロナ禍の影響により、その対策等が中心となったこと、また、商店街の財政状況が悪化したため、撤去等に係る莫大な費用を捻出できないことから今後は修繕で対応することとなった。	【H30年度】 ・平和通り商店街の合意形成を後押しするため、既存の老朽化したアーケードの撤去や再整備等に対し補助制度創設の検討が必要となる。 【R1年度】 ・ビジョンの目標達成に向け関係者の合意形成を構築するため、家主・地主等のさらなる参画を計り協議を進める必要がある。 【R2年度】 ・ビジョンの目標達成に向け関係者の合意形成を構築するため、家主・地主等のさらなる参画を計り協議を進める必要があったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、その対策等が中心となったため、協議を進めることができなかった。 【R3年度】 ・ビジョンの目標達成に向け関係者の合意形成を構築するため、家主・地主等のさらなる参画を計り協議を進める必要があったが、想定していたよりも長いコロナ禍の影響(緊急事態宣言やまん延防止の適用)により、その対策等が中心となったため、協議を進めることができなかった。 【R4年度】 ・既存アーケードは今後は修繕で対応することとなったが、老朽化への対策は必須であることから、市が創設した補助制度の活用に向けて、既存アーケードの撤去等、ビジョンの目標達成に向け、関係者の合意形成を構築するため、継続して助言等支援を行う。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【H30年度】
・平和通り商店街のアーケードビジョン策定結果に基づき、ビジョン策定後5年後を目途に商店街による既存アーケードの撤去及び代替案、若しくは補助制度を活用した再整備とするのか平和通り商店街として基本方針の決定について合意形成が進むよう支援を行ないながら、新たな補助制度の創設に向け検討していく。

【R1年度】
・ビジョンに示す商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画にするために、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。

【R2年度】
・新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、ビジョンに示す商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画にするために、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。

【R3年度】
・新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、ビジョンに示す商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画にするために、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。

【R4年度】
・平和通り商店街としては今後は修繕で対応するとのことだが、老朽化への対策は必須であることから、ビジョンにある、商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画とするため、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。

市町村名	那覇市							
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	なは産業支援センター機能強化事業(駐車場整備) (H28事業番号3-8、H29事業番号3-8)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-イ 情報通信関連産業の立地促進		
担当部課名	経済観光部	商工農水課	事業実施 年度	平成 28	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(7)	
事業内容	本市の産業振興を支える企業の育成支援施設「なは産業支援センター」の機能として不足している駐車場(自走式駐車場)の機能拡充を計る。 H28年度:基本設計等、H29年度:実施設計、H30年度建設、R2年3月供用開始							
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()							
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H29年度	○年度	○年度	合計		
	A. 予算現額	9,644	14,632	—	—	24,276		
	B. 執行済額	7,289	9,877	—	—	17,166		
	うち 交付金充当額	5,830	7,901	—	—	13,731		
	執行率(%) (B/A)	75.6%	67.5%	—	—	70.7%		
	執行状況の説明	平成29年度において実施設計を進めていくなかで、土質調査を実施する必要があることが確定したため、土質調査に係る委託料を減額補正した。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
				H28年度	H29年度	○年度	○年度	○年度
	基礎調査及びプランニングの実施 (整備位置、施設規模など)	目 標	基礎調査及びプランニング	—	—	—	—	
		実 績	土地調査・用地測量の実施	—	—	—	—	
	実施設計	目 標	—	完了	—	—	—	
		実 績	—	完了	—	—	—	
		目 標						
		実 績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況					
				H28年度	H29年度	○年度	○年度	○年度
	基礎調査およびプランニングの完了	目 標	完了	—	—	—	—	
		実 績	完了	—	—	—	—	
	実施設計書の作成完了	目 標	—	完了	—	—	—	
		実 績	—	完了	—	—	—	
		目 標						
		実 績						

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標（指標）		達成／進捗状況				
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	○年度 目標/発現年度
	駐車場が整備されたことにより利便性が確保されたか（80%）以上を含め、アンケート調査により本事業の在り方を検証する。	目 標	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	—
		実 績	供用開始延期となり未実施	新型コロナ感染症の影響により未実施	新型コロナ感染症の影響により未実施	37.0%	—
		目 標					
実 績							
状況説明	【H30年度】 当初、平成30年度中に供用開始だったが、令和元年11月に延期になった。 【令和元年度】 建築資材（高力ボルト）が全国的に需給逼迫のため工程を見直すことになり、工期を延長し、令和2年3月より供用を開始した。供用開始が延期となったため、事後評価はR2年度末に実施する。 【令和2年度】 供用開始から1年となる令和3年3月にアンケート実施の予定であったが、コロナ禍にあって外出・イベント等の自粛が続いており利用は低迷しており、駐車場整備前と状況が大きく異なることから、評価は次年度に実施する。 【令和3年度】 依然として外出・イベント等の自粛が続いており、利用は低迷したままとなっている。駐車場整備前と状況が大きく異なり、アンケート調査の実施や評価が困難であった。時期や方法、設問等に工夫して令和4年度に調査を実施する。 【令和4年度】 令和4年12月12日～令和5年2月19日にアンケート調査を実施。利便性の確保について、良くなったとの回答が37%であったが、利用しにくくなった等の否定的な回答は3%に留まり、分からないや未回答が41%を占めた。						
【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）			【完了後】改善措置等の検討 （事業効果の更なる向上等）				
【R元年度】 令和2年3月より供用を開始しているが、新型コロナの影響による国の緊急事態宣言による外出・イベント開催自粛によりなは産業支援センター及び周辺施設利用も激減しており、想定よりかなり少ない利用となっている。 【R2年度】 供用開始以降コロナ禍にあり、整備前後を比較するアンケートの実施について状況が大きく異なることから比較が困難となっている。 【R3年度】 供用開始以降コロナ禍にあり、整備前後を比較するアンケートの実施について状況が大きく異なることから比較が困難となっている。 【R4年度】 コロナ禍が長期化したことにより、整備前後の利便性向上によるアンケートの比較が困難で、分からないや未回答が41%を占めたことが目標値未達成の要因と考えられる。			【R元年度】 年度中の供用期間が1か月と短いこと、コロナの影響が大きいことなどから、実際のニーズを把握することが難しいため、次年度以降に状況把握を行う。 【R2年度】 前年同様コロナの影響が大きく改善状況の把握は困難であるため、状況把握は次年度に延期する。 【R3年度】 前年同様コロナの影響が大きく改善状況の把握は困難であるため、状況把握は次年度に延期する。 【R4年度】 駐車場を利用していない理由の中で駐車料金が高いことが47%を占めた他、最大料金の設定の声が過半数占めたことから、利用者の更なるサービス向上を図るため、最大料金設定を実施していく。				
今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）							
【R元年度】 コロナの影響によりニーズを把握することが難しいため、次年度以降に状況把握し、対応を検討する。 【R2年度】 コロナの影響により施設利用者が減少している状況が続いており、状況把握は次年度持越し、成果目標の指標の変更も含めて対応を検討する。 【R3年度】 コロナの影響により施設利用者が当初想定より低迷している状況が続いており、調査は次年度に持ち越し、時期や方法、設問等を工夫したうえでアンケート調査を実施し、整備後の効果について比較できる範囲で検証を行う。 【R4年度】 アンケート調査結果による利用者のニーズを踏まえ、最大料金設定の実施を行い、実施後のアンケート調査の実施を踏まえ、利用者の更なるサービス向上を図る取組等を行っていく。							

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	亜熱帯庭園都市の道づくり基礎調査事業 (H30事業番号1ー5)			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	都市みらい部	道路建設課	事業実施 年度	平成 27	～ 平成 30 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	観光都市にふさわしい観光サービスの環境改善に向け、「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」につなげていくための基礎調査を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中 の予算額 ・執行額 【単位:千円】		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	合計	
	A. 最終予算額	4,000	7,000	—	7,000	18,000	
	B. 執行済額	3,899	6,588	—	6,977	17,464	
	うち 交付金充当額	3,119	5,270	—	5,581	13,970	
	執行率(%) (B/A)	97.5%	94.1%	—	99.7%	97.0%	
	執行状況の説明	・最終的な執行率は97.0%となり、概ね計画通りに執行できた。残額は入札差額である。					
事業期間中 の活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
		○年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	現況路線の調査・評価を行い、道路環境改善のための整備基本方針を設定する。(H27:那覇・真和志地域、H28:首里・小禄地域、H30:那覇西・北地域)	目 標	—	2地域	2地域	—	2地域
	実 績	—	2地域	2地域	—	2地域	
事業期間中 の成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
		○年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	各地域における道づくり基礎調査の完了 (H27:那覇・真和志地域、H28:首里・小禄地域、H30:那覇西・北地域)	目 標	—	2地域	2地域	—	2地域
		実 績	—	2地域	2地域	—	2地域

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度 目標/発現年度	
	本事業による整備した道路について、観光客へ観光地としての魅力が向上したか(80%以上)を成果目標とした。アンケート調査の結果は(90%以上)となっており、本事業の成果目標を達成した。		目 標	—	—	—	80%以上	80%以上
			実 績	—	—	—	91.3%	91.3%
	状況説明	【R1年度】 ・整備基本方針を策定し、その方針に基づき、選定された路線について整備の優先順位を決定した。 【R2年度】 ・久茂地泊線の一部を整備した。 【R3 年度】 ・久茂地泊線・繁多川中央線の一部を整備した。 【R4年度】 ・識名19号外2路線を整備した。						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R1年度】 令和4年度の供用開始に向けて、道路整備の事業化に向けて検討を行う。	【R1年度】 基本方針に基づき、路線ごとに適切な補助メニューの活用等を検討し、路線整備の事業促進を図る。
【R2年度】 久茂地泊線の一部を整備したことにより「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」ができた。	【R2年度】 予算を確保することにより、更なる観光都市にふさわしい道路整備に努める。
【R3年度】 久茂地泊線・繁多川中央線の一部を整備したことにより「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」ができた。	【R3年度】 予算を確保することにより、更なる観光都市にふさわしい道路整備に努める。
【R4年度】 識名19号外2路線を整備したので「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」ができた。	【R4年度】 予算を確保することにより、更なる観光都市にふさわしい道路整備に努める。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R5年度以降】
・優先順位の高い路線の整備に向けて、各関係部署・機関と調整を行い、円滑な設計・整備工事に努める。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	貸切バス乗降場・待機場整備事業 (H30(繰越)事業番号1-36)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ 観光客受入体制の整備	
担当部課名	経済観光部	観光課	事業実施 年度	平成 30	～平成 31	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	貸切バスの国際通り周辺での路上駐車による交通混雑の緩和を図る。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H30年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	43,528	—	—	—	43,528	
	B. 執行済額	34,077	—	—	—	34,077	
	うち 交付金充当額	27,261	—	—	—	27,261	
	執行率(%) (B/A)	78.3%	—	—	—	78.3%	
	執行状況の説明	・H30年度は沖縄県との合意書締結の調整に不測の日数を要し、想定外の基本設計業務に係る手続き等により、年度内の事業完了が困難となったため繰越を行った。 ・不用額は、当初想定していた工事請負費について、仕様・数量の変更等による予定価格の減額と、落札差額(約90.5%)による入札執行残である。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	H31年度	○年度	○年度	○年度
	乗降場・待機場の整備 ①舗装工事 ②機械設備工事	目 標	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の実施	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の実施	—	—	—
		実 績	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の完了	土質調査、磁気探査、実施設計、舗装工事の完了	—	—	—
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	H31年度	○年度	○年度	○年度
	県庁北口付近及び牧志駅付近への貸切バスの一日平均流入台数:2割減	目 標	2割減	2割減	—	—	—
		実 績	調査未実施	調査未実施	—	—	—
		目 標					
実 績							

事業完了後の取り組み

事業完了後	成果目標(指標) □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果	達成／進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	○年度 目標/発現年度
	県庁北口付近及び牧志駅付近への貸切バスの一日 平均流入台数:2割減	目 標	2割減	2割減	2割減	—	—
		実 績	調査未実施	調査未実施	調査未実施	—	—
	貸切バス乗降場・待機場の年間利用台数	目 標				50台	
		実 績					

の 成 果 目 標	【R2年度】 ・貸切バス乗降場の供用開始と同時期に、新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の観光客が激減している。貸切バスの利用自体も激減している状況が続いているため、台数計測による検証ができる状況にないことから、旅行需要の回復後に計測を実施する。(年間利用台数:6台)
	【R3年度】 ・長引くコロナ禍の影響による観光需要低迷により、貸切バスの利用自体も少ない状況が続いている。台数計測による検証ができる状況にないことから、旅行需要の回復後に計測を実施する。(年間利用台数:12台)
	【R4年度】 ・外国人観光客受入再開や国内向け観光施策等により、令和4年9月から毎月の利用はあるも乗降場自体の利用台数は低迷。経年比較による周辺地域の流入台数の検証ができる状況にないことから、令和5年度の成果目標(指標)を見直した(令和4年度年間利用台数実績:25台)。。

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R2年度】 ・昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外観光客の激減し、貸切バス利用自体も激減している状況が続ぎ、台数計測による検証ができる状況にない。	【R2年度】 ・今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。
【R3年度】 ・R2年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外の観光客数の減少は続いており、貸切バスの利用も低迷。依然、台数計測による検証ができる状況にない。	【R3年度】 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。
【R4年度】 ・観光需要は徐々に回復傾向にあり、以前よりも貸切バスの乗車は見受けられるが、乗降場の利用は低迷。周辺地域の流入台数計測による検証ができていない。	【R4年度】 ・旅行会社及びバス会社等各関連団体への周知や市公式HPでの情報発信を引き続き行いながら、利用増へ向けた改善策を検討していく。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R2年度】
・今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。

【R3年度】
・引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。

【R4年度】
・旅行会社及びバス会社等各関連団体への周知や市公式HPでの情報発信を引き続き行いながら、利用増へ向けた改善策を検討していく。また、成果目標（指標）については、これまで調査が実施できていない「一日平均流入台数」では経年比較ができず、事業の効果検証が難しいことから、これまでのデータもあり、経年比較及び効果検証が可能な「年間利用台数」に変更する。